



—お問い合わせ先—

洗心寮 里親支援機関

〒841-0204 佐賀県三養基郡基山町大字宮浦823番地2 TEL:0942-92-2818

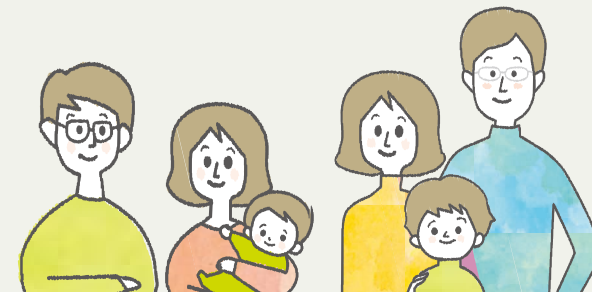
mail sensinryo@wago.or.jp 洗心寮 里親制度 [検索](#) HP <http://www.wago.or.jp/>



フォスターホーム(養育里親家庭)についての質問や相談など、どんなことでもかまいません。まずはご連絡ください。短期間(数日~数ヶ月間)の迎え入れもあります。

Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION





あたたかさとおや

里親に興味はあるけれど、
子どもを迎え入れたらどんな生活になるのだろうか？
そう思われている方も多いのではないのでしょうか。
この冊子では現在里親をされている方や
ファミリーホーム（※）を開設されている方に
暮らしぶりをうかがいました。
子どもを迎え入れ、里親になるということ。
それは、どんな毎日なのか。
そこに、どんな想いがあるのか。
里親のみなさんそれぞれの声を紹介します。

※ファミリーホームとは？

ファミリーホームとは家庭に問題がある子どもを里親など養育者がその家庭に迎え入れる「家庭養護」のこと。養育者が5～6人の子どもを預かり、家庭の中で豊かな人間性や社会性を養い、将来自立した生活ができるように育みます。



最初は里親・里子の関係でも、
時間とともに親子になっていきます。



菅原亜紀さん
(すがはらあき)

平成29年3月に当時2歳半だったYくんの里親に。
また長期休暇のときには季節里親として子どもたちを家に迎えています。

目的のための「だっこ」から、 愛情を求める「だっこ」へ。

Message 01

私は結婚願望があまりなく、子どもを産みたいとも思っていませんでした。でも保育士として働いていますし、子どもは好きでしたので「家庭で暮らせない子がいるなら育てたい」と思っただけです。この子が2歳半くらいでウチに来てから、ちょっとした成長や変化に喜びを感じる生活になりました。来たばかりのころは1人で静かに遊んでいましたが、今は人とのふれあいも楽しんでいますし、ずっとうるさいです(笑)

里親になって半年ほど経った頃、この子が病気になったので私も1週間ほど仕事を休み、つきっきりで看病したことがあります。だんだん体調が良くなったのでお散歩に出かけると、急に道端でひっくり返って泣き始めました。だっこしても嫌がるし、でも降ろしたら泣き叫んで…。これまでとは全然違う泣きかたでした。説明できませんが、そのとき感じたんです。「この子は今、自分の意思や欲求に気づいたんじゃないか」と。今思うと、それまでのだっこは愛情を求めて甘えているのではなく、単純に「歩くのがつかれたから」という目的のためでした。今まで抑えていた感情が芽生えて、どうしたらいいのかわからず泣いている。そう感じました。それからは愛情を求めるだっこに変わりましたし、私が親として認められた瞬間だったのかもしれない。



血はつながっていないのに
不思議と似てくるんです。

この子はまだはっきりわからないかもしれませんが、私が里親であることは、子どもにもまわりにも伝えるようにしています。でも不思議と似てくるんですよ。私は昔ダンプが好きだったのですが、この子が「USA」を踊りだしたとき「やっぱ血はあらそえんね〜。…いやいや違う！」と実家で大爆笑しました。最初は里親・里子の関係でも、時間とともに親子になってきます。もし里親になるか悩まれている方がいたら「やったほうがいいですよ！」と背中を押したいです。



子どものおかげで思い出がふえる。
大変さよりも喜びのほうが大きい。



仁田治樹さん・八恵子さん
(にたはるき・やえこ)

平成21年養育・養子縁組里親として登録され平成30年にファミリーホームを開設。現在は8人の子どもたちと一緒に生活されています。

子どもが来て、家の中が
ぱっと明るくなりました。

Message 02

私たちは子どもを育てたいという想いはあったのですが、なかなか授からず里親になる選択をしました。子どもが来てから、びっくりするくらい家の雰囲気が明るくなりました。私たち大人だけの空間と、子どもがいる空間ではこんなに違うのかと思いますね。それまでも夫婦でドライブなどしていましたが、子どもを連れてゴーカートに行ったり、旅行に行って釣りをしたり、子どものおかげで楽しめることが色々ふえました。また父の日・母の日に「ありがとう」というメッセージ付きの絵をもらったことは忘れられません。

思い出深いのは小学校1年生のとき。学校から連絡があり「〇〇くんが学校にいません」と。その頃は私たちも共働きしていて、カギをかけていたので家にもいません。いろいろ探しまわって「どうしよう…」と思っていたところ、ひょっこり出てきたんです。話を聞くと「ご近所の家でお菓子を食べていた」と(笑)今となっては笑い話ですが、そのときは本当に心配しました。でも子育てというのは大変なこと、心配することもたくさんありますが、ぜんぶ思い出として心に残ります。それに大変なことよりも子どもがいる喜びのほうが、はるかに大きいですね。



大きな家族みたいな感じで
今は毎日にぎやかです。

最初の里子は養子縁組をして、現在は実子となりました。その子だけでなく養育里親として数人迎えており、ひとは巣立って現在は東京で働いています。また縁あってファミリーホームを開設し、最近また2人を実子として迎えました。現在は8人の子どもたちと暮らしています。最初の子も、の中で「おにいちゃん」として慕われており、いつも小さい子のお世話をしてくれます。大きな家族という感じですね。血のつながりはなくても愛情をもって向き合えば、子どもは父母と認めてくれます。私たちは、子どもたちのおかげで人生が変わりました。今は毎日にぎやかです！



どんな境遇で生まれた子どもも、
いっしょに歩む大人は必要。

伊東幹さん・富士子さん
(いとうみき・ふじこ)

H28年8月に養育里親として登録。同年12月、実のお子さんたちが進学で家を出られたこともありHくんを迎えられました。



血のつながりは関係ないと この子が来て思いました。

Message 03



に「ニヤっ」と笑ったり、そういう仕草もかわいいですね。

今思うと実の子どもたちが進学で家を出て、夫婦ふたりで過ごしていた時期は、家の中が静かでした。でもこの子が来てからは夫婦の会話もふえましたし、家の中が明るくなった気がします。『子はかすがい』という言葉がありますが、里子を迎えて始めて本当にそうだなと実感しました。

里親や里子にも理解ある 社会になってほしい。

私たちがあずかって大切に育てても、この子(里子)が背負っているものは変えられません。もし今後、この子が壁にぶつかっても自分で乗り切って、きちんとひとり立ちできるように育てていきたいと思っています。どんな境遇の子も、いっしょに歩んでいく大人は必要です。私たちのように子育てが一段落して、里親を考えている方もいらっしゃると思いますが、まずは短期間でもいいので検討してみてください。また里親にならなくても、里親・里子のことを知って、理解していただくだけでもかまいません。里子として育てている・育った子が、のびのびと暮らせる社会になってほしいです。

私(富士子さん)はずっと前から里親制度に関心をもっていましたが、子どもたち(実子)の成長を待って平成28年に生後10か月の男の子を迎えました。里親になることに最初は迷っていた夫も、今は「孫みたい」とかわいがっていますし、当時17歳だった娘も「私もう少し小さかったら色々思っていたかもしれないけれど、小さい子が来てうれしい」と言ってくれています。

この子が来て思ったのは「血のつながりなんて関係ない」ということ。もちろん子育ては楽しいことばかりではありません。うれしいことと大変なことが行ったり来たりの日々です。でもそれって、実子も里子も同じですよ。現在は3歳になり、まいにち大騒動しているのですが、でも結局最後は「かわいかな〜」と思ってしまいます(笑)何かいたずらする前



子どもたちが巣立ったあと、
帰れる場所をつくりたかった。



森田真二さん・眞奈美さん
(すがはらあき)

H29年4月にファミリーホーム「モリタホーム」を開設。現在は6人の子を迎えられているほか、実のお子さんも2人いらっしゃいます。

ふつうの親子のように 子どもたちと関わりたい。

Message 04



佐賀県はファミリーホームを やりやすい環境です。

里親やファミリーホームを検討されている方に伝えたいのは「いろいろなものを抱えている子を受け入れる大変さもある」ということ。でも、ひとりで悩む必要はありません。里親会や相談員さんなど、喜びや悩みを共有できる人たちがいます。いろいろな人と連携すれば、きっと子育ては楽しいものになるはず。毎日の生活の中で子どもから元気をもらえますし、子どもがいたら家の中も明るくなりますよ。

私がファミリーホームをつくった理由のひとつは、子どもたちが巣立ったあと、いつでも帰って来られる場所をつくりたかったから。いつか、そういう日が来るといいですね。それと佐賀県は行政と児童相談所などとの連携が密に行われており、他の県に比べてファミリーホームがやりやすい環境だと感じます。

私(真二さん)はもともと施設で働いていました。そこでも親と離れて暮らす子どもたちと接していましたが、平成29年にファミリーホームを開設しました。現在は預かっている子6人(小5~高3)と、実の子2人(2歳と4歳)といっしょに暮らしています。施設では当然、勤務時間がありますが、ここでは24時間子どもたちと一緒にいるので、子どもたちの成長をより身近に感じられます。ひとり通院が必要な子がいるのですが、ここでの暮らしで順調に成長してくれて、通院の回数が減ったことは大きな喜びでした。

委託児童の中でいちばん小さい子も小学5年生なので、自分の事情はわかっています。子どもたちが私たちに気を使っているように感じることもあります。でも私はふつうの親子だと思って接していますし、子どもたちにもふつうの家庭のように過ごしてほしいと思っています。ごはんは妻(眞奈美さん)がつくってくれるのですが「おいしい」と言ってくれたらうれしいですし、旅行に行ったり工場見学に行ったり、楽しい思い出もできました。





児童相談所などと協力して、
みんなで育てるという意識を。



中川博志さん・孝子さん
(ながわひろし・たかこ)

H18年1月に養育里親として登録。
自給自足の生活をされており、現在は3人目の里子Sちゃん(7歳)を養育中です。

子育てに専門的な知識が必要になる場合もあります。

Message 05

私たちは巣立った実の子4人と、里親として今まで3人の子育てを行ってきました。里子の2人は実親にお返しし、現在は7歳の女の子といっしょに暮らしています。里子の中には心に傷をもっている子もあり、養育する私たちに専門的な知識が求められる場合もあります。また夫婦でも子育ての考え方が違う場合があるので、お互いの気持ちを大切に、子どものために何がいちばんいいのか話し合うことも大切だと思います。

当然ですが、あずかった子を大切に育てて、心身ともに健康な状態でお返ししたいという気持ちは強いです。だからこそ、0歳のときから9年間ほどいっしょに暮らしていた子のことは、実親にお返しした今も気がかりです。私たちはその子の親とも交流していて、よく知っています。親が、がんばっていることもわかっています。ただその子が今、笑顔で生活しているかと言えば、そうではありません。親権などの制度について、子どもの人権について、いろいろ考えながら私たちに何かできることはないか探す日々です。問題を抱える家庭の子どもだけを保護するのではなく、その親も、親子いっしょに支援することが必要なのではないかと感じています。



まずは短期間でも良いので
里親を検討してみてください。

里親を検討されている方は、夫婦間でよく話し合ってください。実のお子さんがいらっしゃるならば、子どもの意見も大切にしてください。まずは夏休みのホームステイや週末だけの短期里親から始めてみてはいかがでしょうか。里親になったあとも、すべてを自分たちだけで抱え込まずに、児童相談所や里親施設などと協力しながら「みんなで育てる」という意識をもっていればと思います。そして私たち夫婦2人の想いとして「どうしてもダメだと思ったら、できませんと言っていていいですよ」と伝えたいです。あなたのその選択を責める人は誰もいませんので。

子どもの現状と里親

さまざまな家庭の事情により、養護されている子どもたちは全国で約45,000人にもなります。私たちが暮らす佐賀県でも約300人の子どもが親元を離れて暮らしています。

「里親」とは、そんな子どもを一定期間、家庭に迎え入れ、愛情を注ぎながら育てていただく方のことです。

里親の期間

数か月～数年間まで、さまざまです。

※数日～数ヶ月間の短期里親もあります。

里親の子育てを支援

■養育面でのサポート

児童相談所や里親支援専門相談員などが子育てをサポートします。また里親さん同士で情報交換や相談などができる「里親会」というコミュニティもあります。

■経済面でのサポート

里親には子どもの養育費(生活費、学校教育費、医療費等)が支給されます。

里親の種類

里親＝養子縁組というわけではありません。
里親には、さまざまな種類があります。

養育里親

子どもを一定期間、家庭に迎え入れて育てていただける方

養子縁組里親

養子縁組によって、子どもを養子として育てていただける方

専門里親

虐待や障害など専門的な援助を必要とする子どもを育てていただける方

親族里親

実親が養育できない場合に、親族で育てていただける方

里親になるまで

- 1 まずは児童相談所にお問い合わせください。
里親制度について詳しく紹介します。
- 2 児童相談所へ申し込み
- 3 児童相談所の職員などによる家庭訪問。
それぞれのご家庭の状況を確認します。
- 4 研修を受講 ●子どもの養育を理解するための講義
●児童養護施設・乳児院の実習
- 5 社会福祉審議会の審議を経て、
佐賀県知事から里親として認定・登録
- 6 子どもとの交流(面会・外出・外泊)
- 7 里親として子どもとの暮らしが始まります。

